

——中・高年齢向けの衣服製作を通じて——

文化女大家政 戸叶光子

目的 だれでも美しく、しかも着易い服が着たいと思うものだが、普通サイズからはみ出た肥満サイズの人には、その上さらに、体型をカバーし、少しでもスマートに見せたい願望がある筈である。肥満体型には、どのようなデザインが似合うのか、服づくりはどうすればいいのか、中・高年齢の肥満体型モデルで試みた。同時に肥満体向けの、既製の服の市場の現状や、サイズの問題も探ってみた。

方法 昨年の発表では、世代別の肥満体を観察・比較し、ベーシックドレスを試着させ、各世代別の、作風上の問題点を見出して、試案を試みた。今年はその案を応用発展させ、40代、60代肥満体型のモデルに、夏服を作成した。

結果 (考察) 肥満体型向けの、衣服を作成するには、みにくい箇所、例えばヒップや、ウエストのゆとりをやや多めにし、スカートの前丈などで、体型をカバーする配慮が必要である。デザインに当っては、前衿ぐりを下げ、ベルトなどでウエストを軽くおさえたり、上衣丈を工夫することである。幅を感じさせないよう、前あきを短冊にしたり、フリーフを部分的にとり入れたりする。着易いためには、袖ぐりを窮屈にしないこと、体をしめつけないことである。

市場調査で、既製の服の売り上げは全体の約3割だということが分かったが、前回の発表で、中・高年齢の肥満体の出現率が、約3割に近かったこととも一致した。

サイズの表現も各メーカー、まちまちでJIS衣料サイズが、必ずしも徹底しているとは思われなかった。